

いつた。

「私もポウルさん好き。」

ポウルは多く言はなかつたが、其晩中フローレンスの傍にピツタリ倚りそつてじつとしてゐて、床に就いてから三四度「よい姉さんだ〜」を繰り返した。

それから土曜の晩には、フローレンスが、

ポウルの傍で、次の週に要しさうな事を、根氣よく教へてやるのが規則のやうになつた。姉さんが目を通したところだと思ふと、ポウルにも其處をするのが樂みになり、又實際に荷が軽くなるのでポウルはブ娘の負はせる重荷の下に潰されずに済んだ。(續く)

## 我國在來の玩具と恩物

大阪市西區本田  
幼稚園保母 三宅登茂子

きまして私の卑見を聊か申述べたいと存じます。

私は玩具は子供の爲に造られた物なれば危険な物の外は何んでも使用致させたいと思ひます。殊に働きより玩具の勢力が一層大なることもあります。夫故に適當なる玩具を澤山児童に與へることは幼児教育には誠に大切な事であります。つ

尚な精神的作用を活動せしむる物が多いやうに思

ひます。そこで私の考へます處では、フレーベル先生が此恩物をお考になつた時代は未だ子供の實驗心理學的研究がせられてなかつた爲に其見方が違つて居つたのではないかと思ひます。此時代は子供を大人の小さいものと思ふて居つたのであります。故に恩物も之に適當する様に拵らへられたのであります。それ故恩物の多くは抽象的のものであります。主として精神の比較的高尚なる作用の活動又は發達に資すべきものが多いやうに思ひます。又之を使用する上に於ても全々個人的のものであります。

然るに幼稚園に於て保育上重要視する點は幼児の自由活動に依り身體養護、及び發達を專とし、又遊戯に依りて共同一致の精神及び各種の感覺機關の練習をなし、學齡に至り小學校教育を受け易からしむべき心身たらしむることであります。然らば從來の恩物のみでは身體の養護を主とす可き體育的玩具、共同的精神養成に使用す可き共

同遊戯の玩具等の不足が起つて來ます。故に幼児に恩物を使用なさしむる場合には、之を普通玩具と倣して在來の玩具と併用して恩物の抽象的なるものを具體的ならしめて使用なさしむれば保育上有益なる事と思ひます。假令は汽車の玩具を使用する場合、積木にて停車場を拵へ箸をならべてレールとなすが如くすればよいと思ひます。

次に在來の玩具に就いて申上ますと、此方が比較的現今の幼稚園保育に適して居るものが多い様に思ひます。さう申しますと私が元來玩具煩惱でありますから我田引水勝手なことを云ふのではないかと仰るかも知れませんが、私は種々なる方面から考へますと、第一在來の玩具は具體的のものでありまして幼児の自由遊戯によりまして各種の精神作用と具體の發達を謀るべきものが多くて又共同的使用に適して居ります様に思ひます。子供の使用して居ります有様に就いて一例を擧げて申しますと、前と同様に汽車の玩具を使用する場

合、幼児は思ふ儘に之が全體及び部分を指先又は掌にてなでます。これに依つて觸覺練習をなすことが出来ます（これはモンテッソーリー氏式をいたのであります）。次に色彩形體に就きて暫く視覺の練習をなし然る後に『ゼンマイ』を掛けて下に置き、之が行進と共に幼児はさながら汽車に乗りたる如く、さも愉快げに両手を上下前後に圓形を書きしゆ／＼と車輪のきしる音を想像的に發聲します。汽車と共に拾人の一團體の子供は皆走り出します。汽車が行進を止むれば拾人一團の幼児は之と共に立止まりて「ボン」大阪／＼と先頭なる子供が呼びます。そう致すと今迄傍に之を見て居りました子供は「お歸りなさいませ」「お早うございましたね」など申しまして町寧に拶挨をして禮儀の練習を致します。と云ふ風に使用して居ります。之等はほんの一例に過ぎないのですが、其他種々なる玩具を保育上に使用致しますれば直觀と經驗的想像とによりて確實なる觀念を形造ること

が出来ます。又両手にて圓形を書きつゝしゆ／＼と發聲し汽車と共に行進致しまするなどは體育上大なる利益があります。最後の下車に至りて父母兄姉の旅行歸りを迎へて拶挨をなすが如く德育上有益なる點に至りましては到底幼稚園恩物の及ぶところではありません此一例に依りて考へましても幼児保育上多方面に利益する點が在來の玩具の方に多い様に思ひます。

然らば未だ概念作用の發達しない幼稚園時代の子供には從來の恩物は適せない點が多くて日本在來の玩具の方に適當する點が多い様に考へます。然しがれでも恩物も先生が世に居られたならば或は妙味ある様に使用せられるかと思ひますが私が年來の經驗に依つて考へますと在來の玩具を應用的に使用する方が保育上有益と思ひます。

以上は實際經驗上からの所感を述べただけであつて、この問題に確固たる解決を與へた譯ではありません。もすこし、フレーベル氏の恩物の効果

を吟味し其次ぎに在來の玩具の教育的價値及び其

使用法を研究した上で更に卑見を述べ諸家の御示

教を受けたいと思ひます。

## 英 國 の 幼 稚 園 教 育

（マーレー氏による）

### 紹 介 生

英國の幼稚園界の大體を窺ふには先づ一八五四年斯學の殊勳者獨逸のマーレンホルツ、ビューロー男爵夫人の倫敦へ來た事から筆を起さねばならぬ。當時英國ではディッケンスが子供を大人扱ひにする教育を非として盛んに之を冷評してゐた。

ディッケンスはマーレンホルツ、ビューロー夫人と力を協せて弊害多き當時の幼兒教育の改良を圖つた。

られてあつた、これは英國の最初の幼稚園でディッケンスなども度々此所を訪れた、マリア、ボエルテ（後にクラウス、ボエルテ夫人）がこの幼稚園に補助を與へてゐた。

一八五四年藝術會が主催になつてセント、マーチン堂に萬國教育博覽會を開き同時に萬國教育家大會を催した、これはコンソート太子の總裁で大部世間の興味を惹いた、マーレンホルツ、ビューロー男爵夫人はこの博覽會へ種々幼稚園に關する材料を出品した、而してロンジ夫人は自ら出品物

番にはロンジ夫人の經營に係る幼稚園が既に設け

この頃倫敦のタビストック、ブレースの三十二